

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成24年3月15日 (2012.3.15)

【公開番号】特開2010-193097(P2010-193097A)
 【公開日】平成22年9月2日 (2010.9.2)
 【年通号数】公開・登録公報2010-035
 【出願番号】特願2009-34390(P2009-34390)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 1/41 (2006.01)

H 0 4 N 7/30 (2006.01)

H 0 3 M 7/30 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 N 1/41 B

H 0 4 N 7/133 Z

H 0 3 M 7/30 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月25日 (2012.1.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 0 】

さらに、S804において、統計情報ScanTotals[n]とScanTotals[n-1]の大小関係を判定する。ScanTotals[n]がScanTotals[n-1]より大きい場合は、変換係数C[n]の位置では、変換係数C[n-1]の位置より有意係数の発生回数が多いことを意味する。そのため、S805において、図10に示すようなスキャン順序に対応する係数の位置ScanOrderとそれに対応するScanTotalsに対して交換処理を施す。また、S802において、統計情報ScanTotals[n]がScanTotals[n-1]以下の場合は、スキャン順序の変更処理は施さない。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 7 】

処理が開始されると、処理S1041において変数nに2が代入される。次に処理S1042において、並列処理数を決定するためのPに最大並列処理数（実施形態では'2'）を設定する。この後、処理S1043にて、連続する2つの統計情報の差Dを算出する。

$D = \text{ScanTotals}(n-1) - \text{ScanTotals}(n) + 1$

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 9 】

一方、 $P > D$ の場合、2つのブロックのスキャン処理を行なった場合、その結果、統計情報内に、昇順となるデータが存在することことになるので、それを降順とする必要がある。すなわち、スキャン順を変更して、最大並列数を少なくする必要があるため、処理S1

045にて、変数Pに変数Dの値を代入する。